

---

## 第3部 出土遺物

---

### 第1章 土器

土器については、以下のように分類し、担当者ごとに整理作業を行った。

- 1群 縄文草創期前半隆線文土器。9層から主体的に出土している。
- 2群 縄文草創期後半無文土器。6層から主体的に出土している。
- 3群 縄文早期押型文土器。4層から主体的に出土している。
- 4群 縄文早期無文土器。3・4層から出土している。
- 5群 縄文早期条痕文土器。3層から出土している。
- 6群 縄文前期以降の土器。3層から出土している。

1・2群土器については小林謙一、3群土器については兵頭勲、4・5群土器については遠部慎、6群土器については山崎真治が担当し、全体を小林謙一・小林尚子が統括した。

なお、観察表の所蔵欄については、Kは慶應義塾大学民族学考古学研究室、Mは久万高原町（旧美川村）教育委員会、Eは愛媛県歴史文化博物館、Tは竹口渉氏、Rは国立歴史民俗博物館をあらわす。

#### 1 1群土器（図16～25、表4～6、写真10・11）

1群土器は、慶應義塾大学民族学考古学研究室・愛媛県歴史文化博物館（および旧愛媛県歴史民俗資料館）・上黒岩遺跡考古館・国立歴史民俗博物館に分かれて収蔵され、さらに別に採取された土器が竹口家に保管されていた。それぞれについて、年月をおいて実測・拓本作業を行った経過がある。2006年1月に国立歴史民俗博物館で催した「上黒岩展」にてすべての出土土器を集めるべく努力したが、全資料を集めるには至らなかったため、全体的に観察や接合作業を行う機会が得られなかった。また、一部、展示が終了し土器を収蔵先に返却した後に、違う場所で保管されていた土器片が発見されたこともある。そのため、写真撮影後に、接合する土器片や同一個体と判明する土器片が見つかったため、出土土器写真図版は、図と違っている場合が多々ある。

接合状況および文様・焼成・胎質から複数破片についてグルーピングして9個体を同一個体と認定し、個体A～Iとした。別に単一破片で個体A～Iとした以外の口縁部破片で9片が確認される。よって、最小で18個体は確認されることになる。多くの土器器面に繊維状の混入が認められ、焼成はやや堅く薄手でしっかりした胎質の土器が多い。内傾接合で薄く引き延ばしたような接合面を持つ。文様装飾としては、口縁内面の横走隆線や斜位の垂下隆線が見られる。細く加飾のない隆線、やや細く親指と人差し指で軽くつまむように波状加飾される隆線、やや太く平たい感じを持つ隆線で親指と人差し指で器面に軽く押しつけながら波状加飾する3つの隆線がみられ、ほかに無文の口縁部破片もある。

以下に同一個体と認定した個体ごとに説明する。( )は図ナンバーである。

**個体A** (17・25・27・49・62・75) 擬口縁(62)1点を含む、口縁近くの胴部破片。隆線1条を横走させ、その下位にV字状に連ねる三角形区画(片側に1~3本の隆線が交差)を横帯させる。隆線はやや細く、隆線上端を親指と人差し指でつまむようにして波状加飾する。器面表面には細かい植物繊維の混入が観察できる。この個体は、破片ごとに調査次・出土区が別々であるが、8層の1片を除き9層の出土であり、胎質や装飾技法等から同一個体であると考えた。

**個体B** (33・40・41・45) 3次C区拡張区9層から多くが出土している。口縁部破片1片(45)を含む。口唇直下および口縁外面に2本の隆線を横走、口唇内面に1本の隆線を横走させる。外面口唇直下の横走隆線はほとんどの部分が剥落し、装飾は不明である。下位の隆線はやや細く、親指と人差し指でつまむようにして波状加飾する。さらに下位に右下がりの隆線を斜位に貼附し、その隆線状も波状加飾する。斜位の隆線下端にも横走隆線を廻らせ、文様帯として区画していた可能性があるが、隆線が剥落しているため不明である。口唇内面の隆線は外面よりは太めであるが、基本的には同質の横走隆線で、波状加飾を施す。胴部には繊維状の混和が多く認められる。

**個体C** (63・76) 口縁部破片(63)を含む。口唇上外側にやや細い隆線を貼附し親指と人差し指で波状加飾を行う。その隆線から直に垂下および右下がりの斜位隆線を貼附し、同様に波状加飾を施す。

**個体D** (68・69・70) 胴部破片3片である。国立歴史民俗博物館所蔵の2片(69・70)は出土区不明だが、付属していたと思われるラベルにD区9層との記載がある。竹口家所蔵の1片は表採遺物で、十亀氏が資料報告を行っている[十亀19『遺跡』22]。隆線1~2本のやや太めの隆線が横走し、その間を縦位の隆線がつなく。また区画内に豆粒状の貼附が認められる。やや太い隆線で、隆線上は親指と人差し指でつまむようにして波状加飾する。69の縦隆線の両側には縦位に指先と思われるナデ痕が顕著に残る。一部の器面に繊維状の混和が見られる。

**個体E** (20・23・29・44) 3・4次のC・D区9層出土である。口縁部破片3片(20・23・44)を含む。外面は口唇直下および口縁部に2本の隆線が横走する。44の破片では、2本目の隆線下位に垂下する隆線が認められるが欠損しており不明である。口縁内面には、口唇直下(23)からやや下がった位置(44)に隆線が横走する。隆線は内外ともやや細く、親指と人差し指でつまむようにして波状加飾する。

**個体F** (16・21・22) 2次D区8層、3次C区9層出土の胴部破片3片である。1本の隆線が横走し、その下位に斜位の隆線が右下がりに垂下する。細い隆線で、隆線上には加飾は施されず、直線的である。また、欠損する部分を見ると、明確な断面を見せて折れており、器面との接合面も不明瞭である。他の個体のように剥落したあとの粘土の接合面が明確に残るタイプとははっきりと異なっており、隆線貼附時の乾燥の度合いが異なっていたことが想定できる。器面は滑らかである。

**個体G** (67・78・79) 上黒岩考古館の展示ケースの下から改めて見つかった土器片で、いくつかの破片が接合したが、もともとの出土区等はすべて不明である。胴部破片で、1本の細い隆線が横走し、その下位に三角形の区画をなすように2本のV字状の隆線を貼附する。胎土や焼成は異なるものの、個体Fの隆線と同じく波状加飾のない隆線で、隆線の貼附部分も同様の特徴を持つ。

**個体H** (46) 口縁部を残す。考古学ジャーナルの概報などに掲載があり、4次B区9層出土で

ある。やや太い隆線である。器面には繊維状の痕跡が見られる。複数の破片が接合しているが、もとの破片の帰属は不明確となっている。ここでは出土区・層位などが確認できる破片としては1破片しか確認できないが、便宜的に個体Hとした。器面には繊維状の痕跡が認められる。口唇直下に横走隆線があり、2本1組の隆線が垂下する。その間を3本の隆線が横走する。隆線はやや太くやや平たい。親指と人差し指の指先で波状加飾される。

**個体I**（5・6） A区6層出土であるが、隆線は部分的に見られること、繊維状の痕跡が器面に見られるほか、胎質や焼成から1群土器とした。6には剥落したV字状下端の可能性がある隆線の痕跡と、隆線端部と思われる凸部が見られる。6は無文の胴部破片である。ともに胴部下部に繊維の混和が顕著である。

以上の個体資料の他、口縁部破片として下記の破片がある。24・25は小破片である上、器面に剥落があり、個体認定は難しい。37はあきらかに無文の土器で、小型鉢と考えられる。43は中型の深鉢程度の口径が推定される無文の土器である。47・48も同様の無文の口縁部破片である。42は、口唇直下に弱く波状加飾されるが基本的には細く波状加飾されないタイプに隆線が横走する。64は無文口縁部破片であるが、表面には細かい擦痕が見られる。65・66もやや類似した破片である。71は擬口縁ではないかと思われる。

胴部破片としては、下記の破片が上記の個体認定土器と別固体である可能性が高い。8は、胴部器面に突起がみられるが、豆粒状突起と言うよりは、粘土粒が器面に付着しただけの可能性もある。9はやや細く加飾のない隆線が横走する。30はやや細い横走隆線に親指と人差し指によるつまみで波状加飾が施されるが、つまみは少し指をすりあわせるようにして2度つまんでいるように観察できる。51、52には加飾のあるやや細い隆線が横走するが、52は爪先の刺突が隆線状に認められる。つまんだ際の痕跡かと思われる。50は、やや太めの加飾ある隆線が見られるが、おそらく横走隆線と三角形モチーフとの結節部ではないかと考えられる。74も類似したモチーフの胴部破片である。55・56・57には隆線が剥落した痕跡が認められるが不明である。72は太い隆線の端部が認められ、ごく弱く波状加飾が認められる。61は平丸状の底部破片で、太くやや平たい隆線が接地面に一周している。内面には多量の繊維状痕跡の混和が認められる。

(小林謙一)

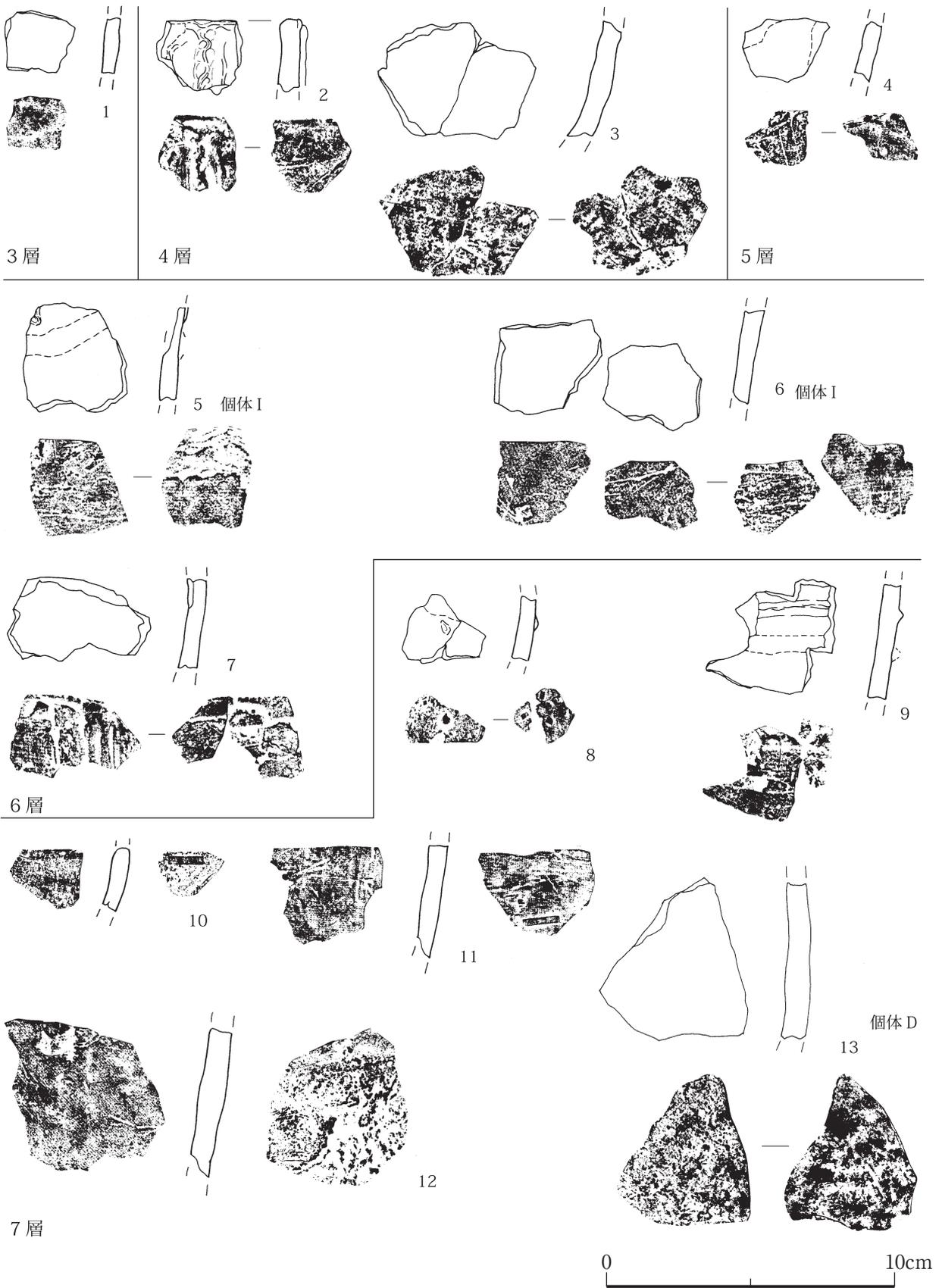


図16 1群土器 1 (S = 1/2)

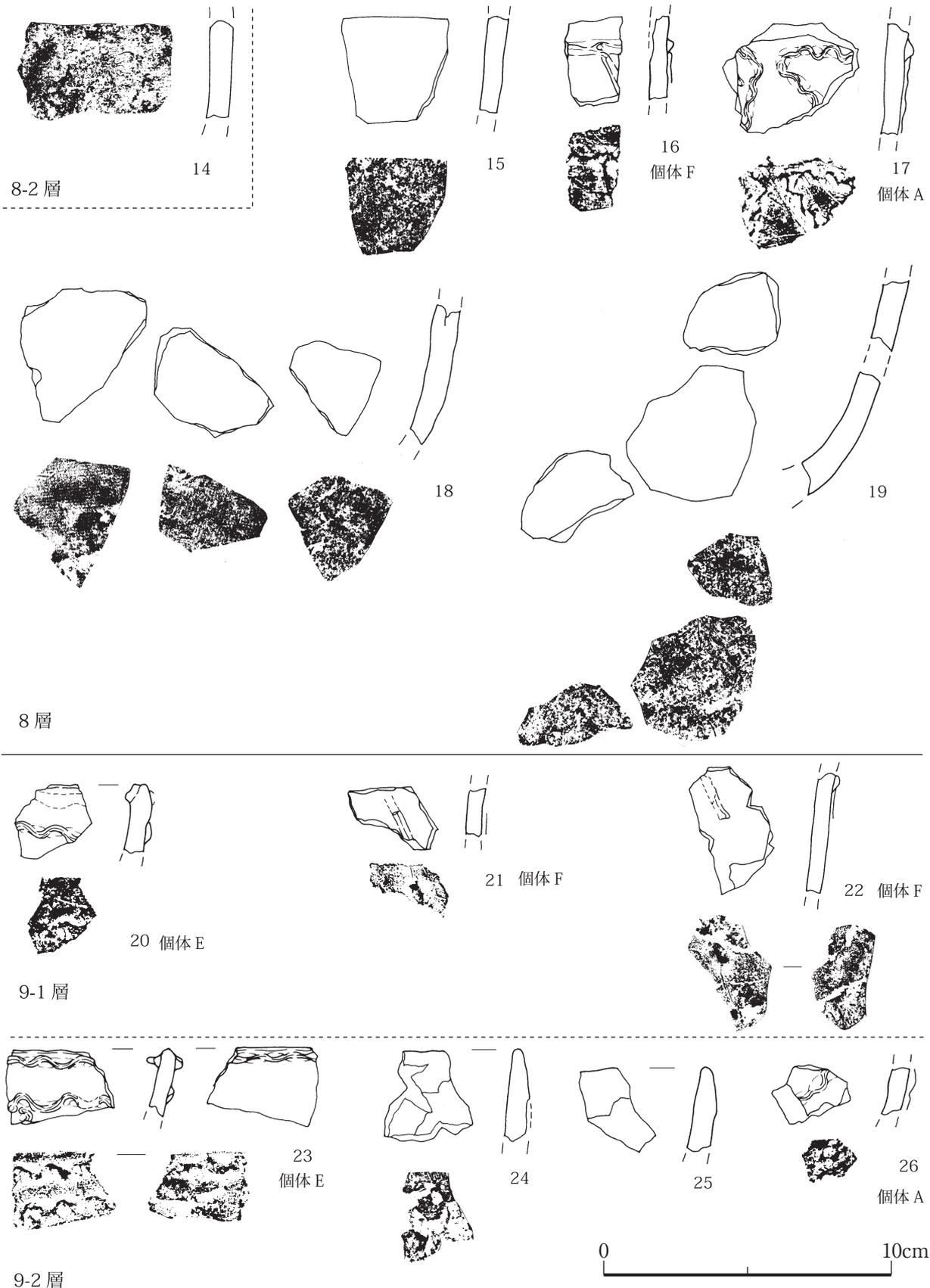


図17 1群土器 2 (S=1/2)

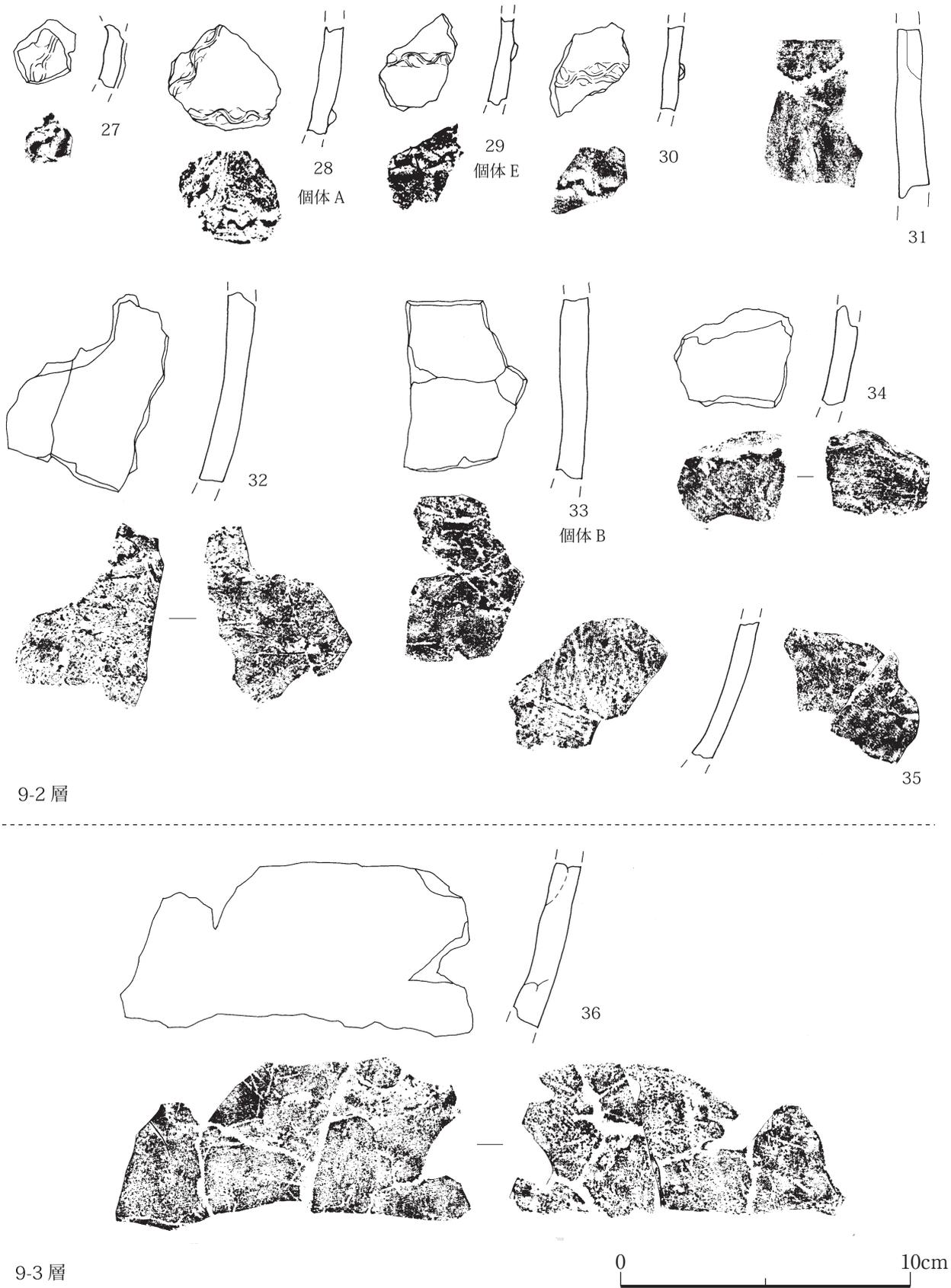


図18 1群土器 3 (S=1/2)

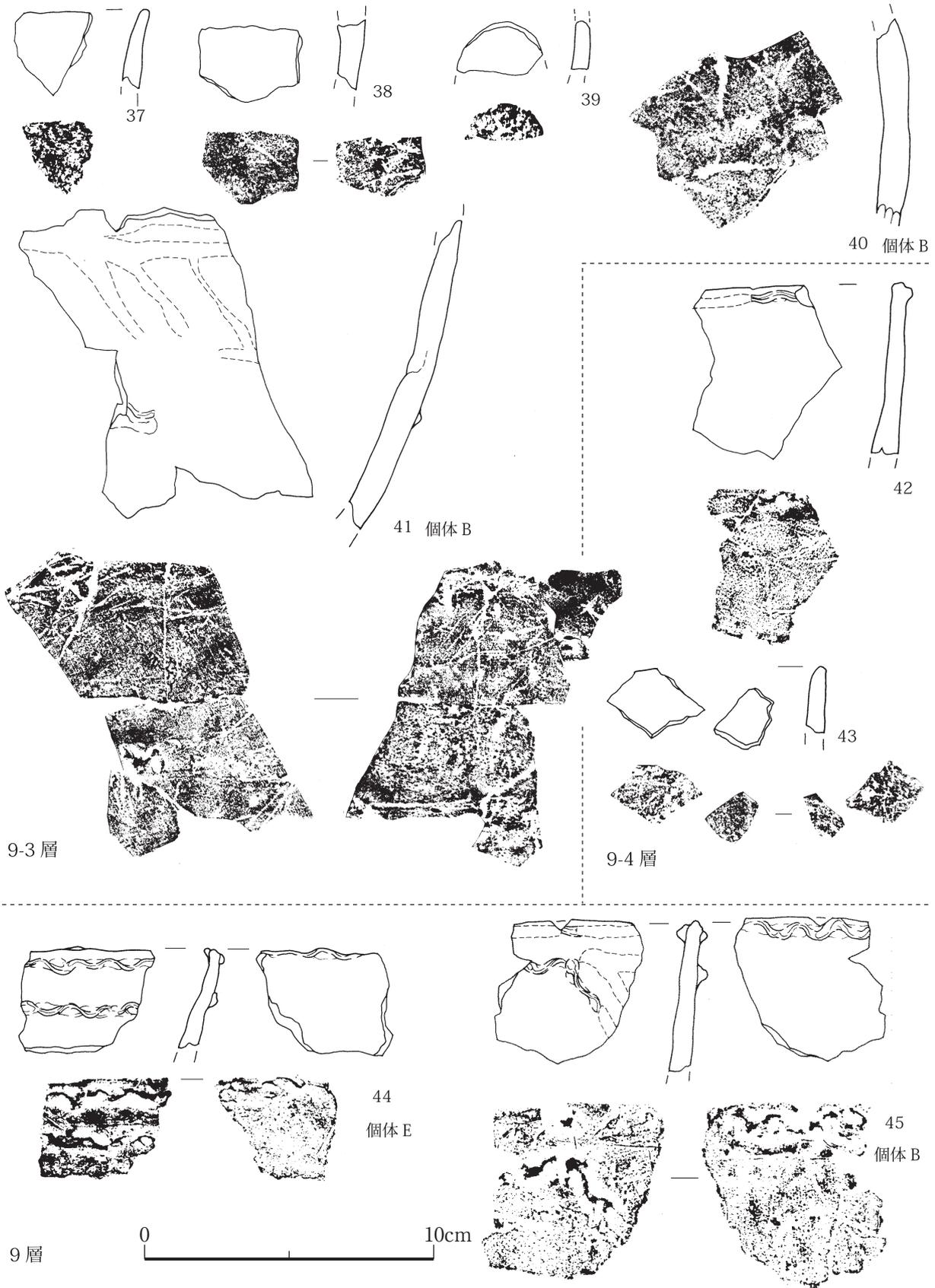


图19 1群土器 4 (S=1/2)

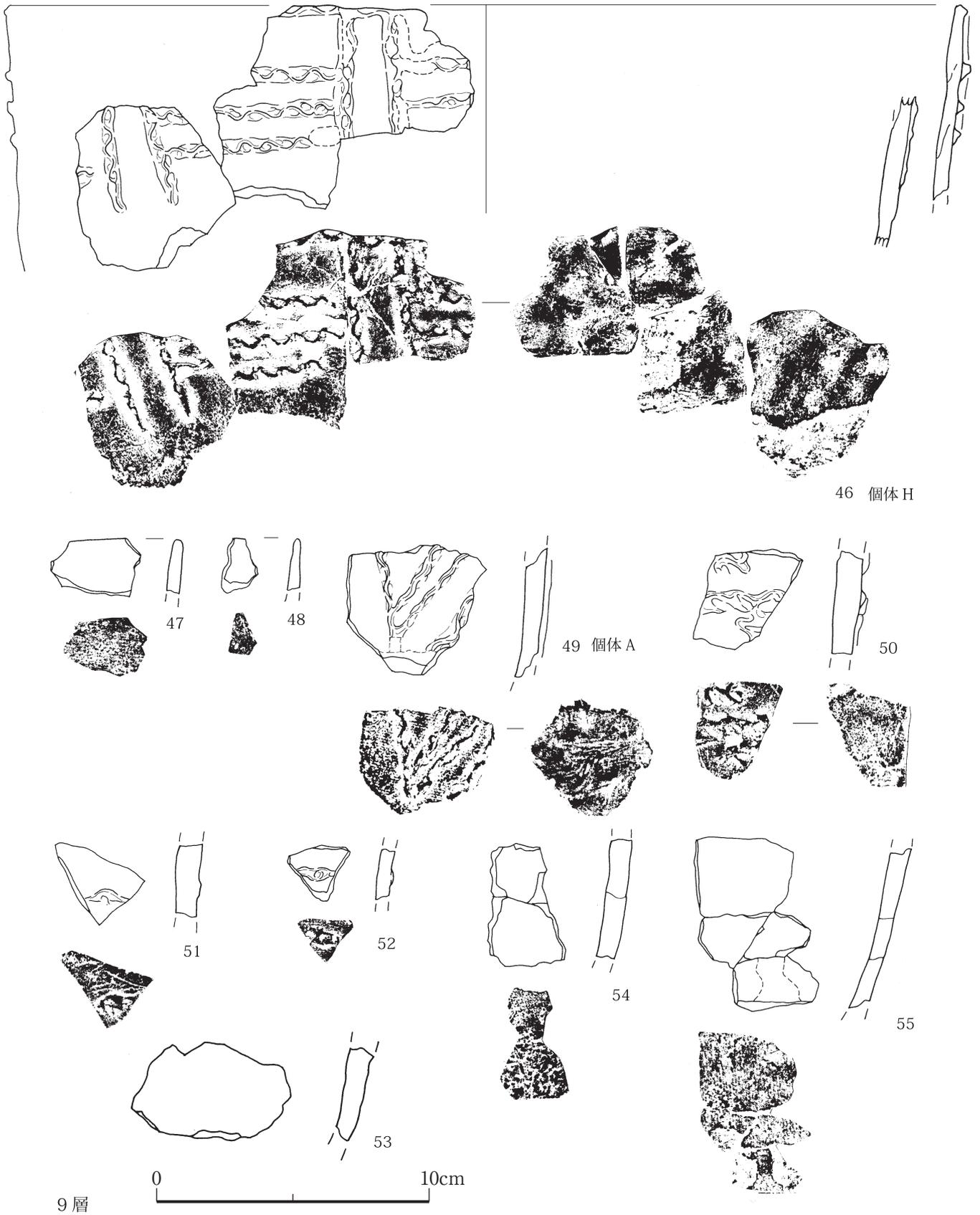


図20 1群土器 5 (S = 1/2)

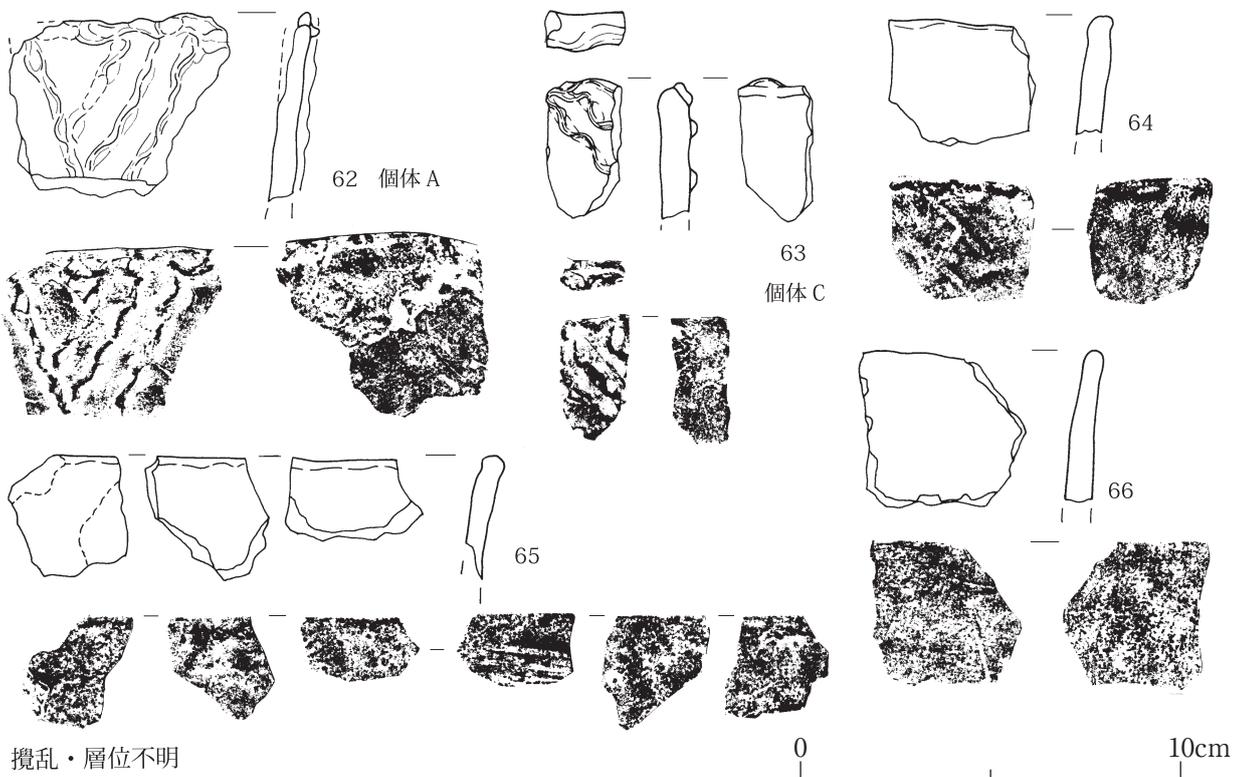
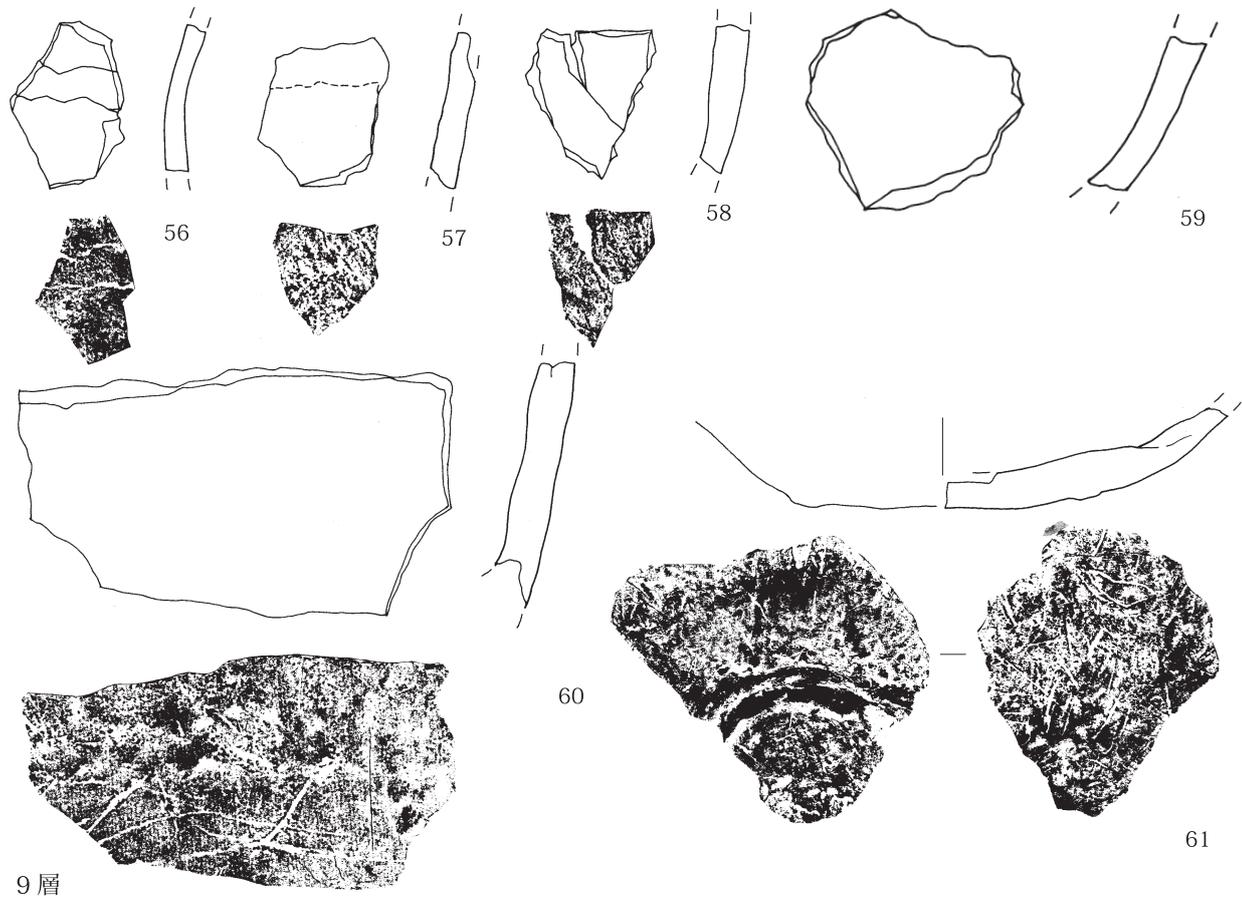


图21 1群土器 6 (S=1/2)

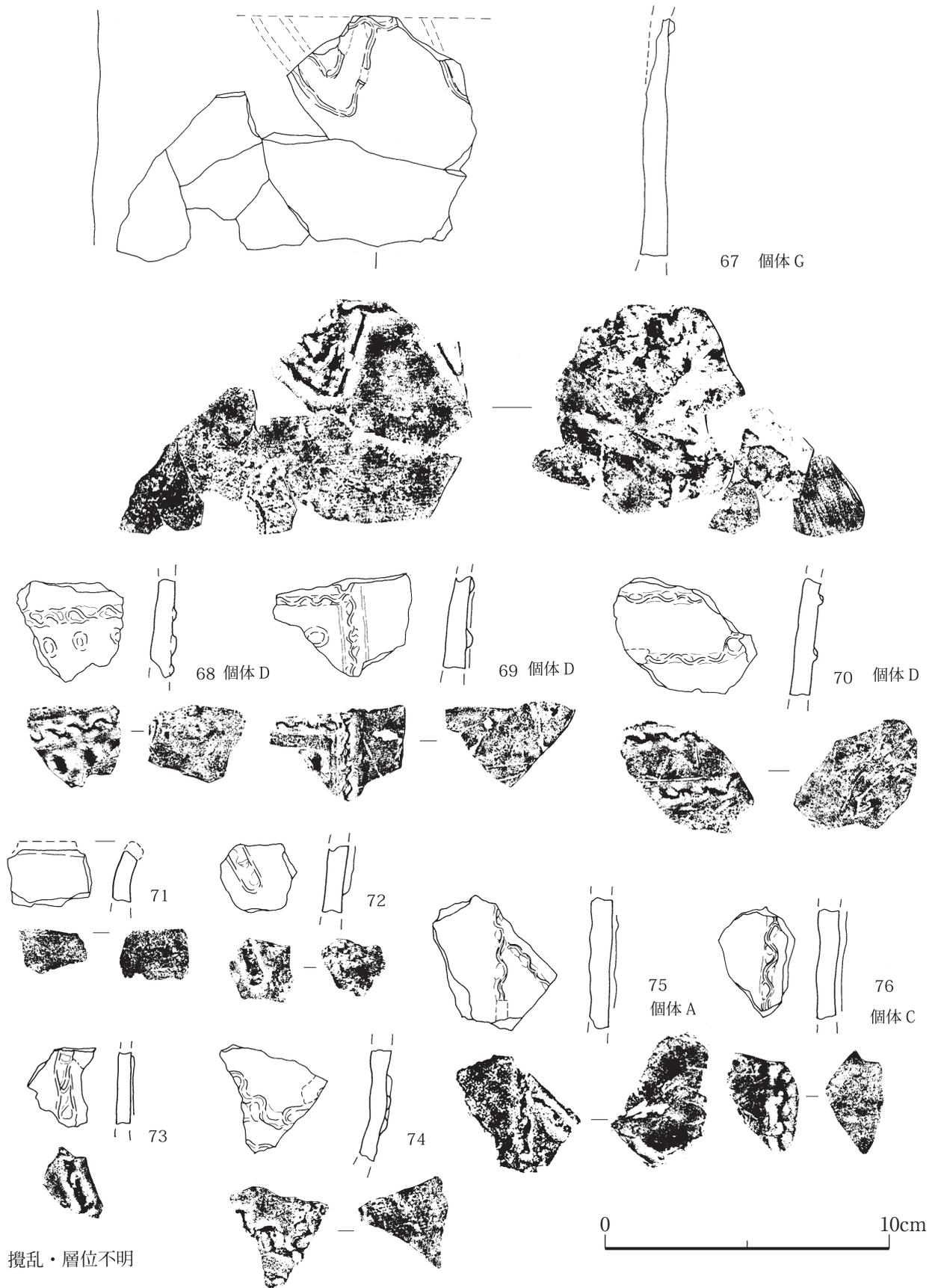


图22 1群土器 7 (S=1/2)

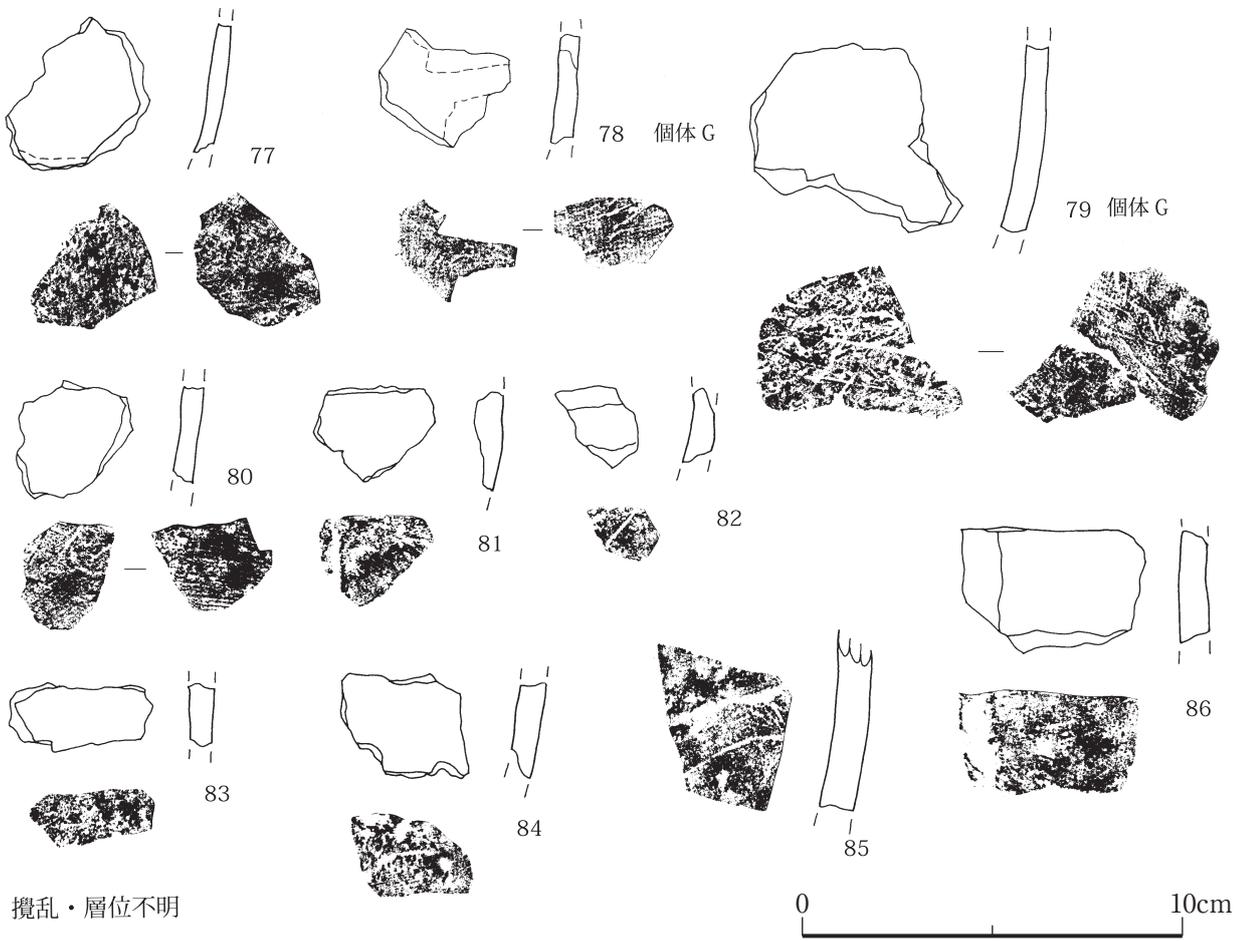


图23 1群土器 8 (S=1/2)

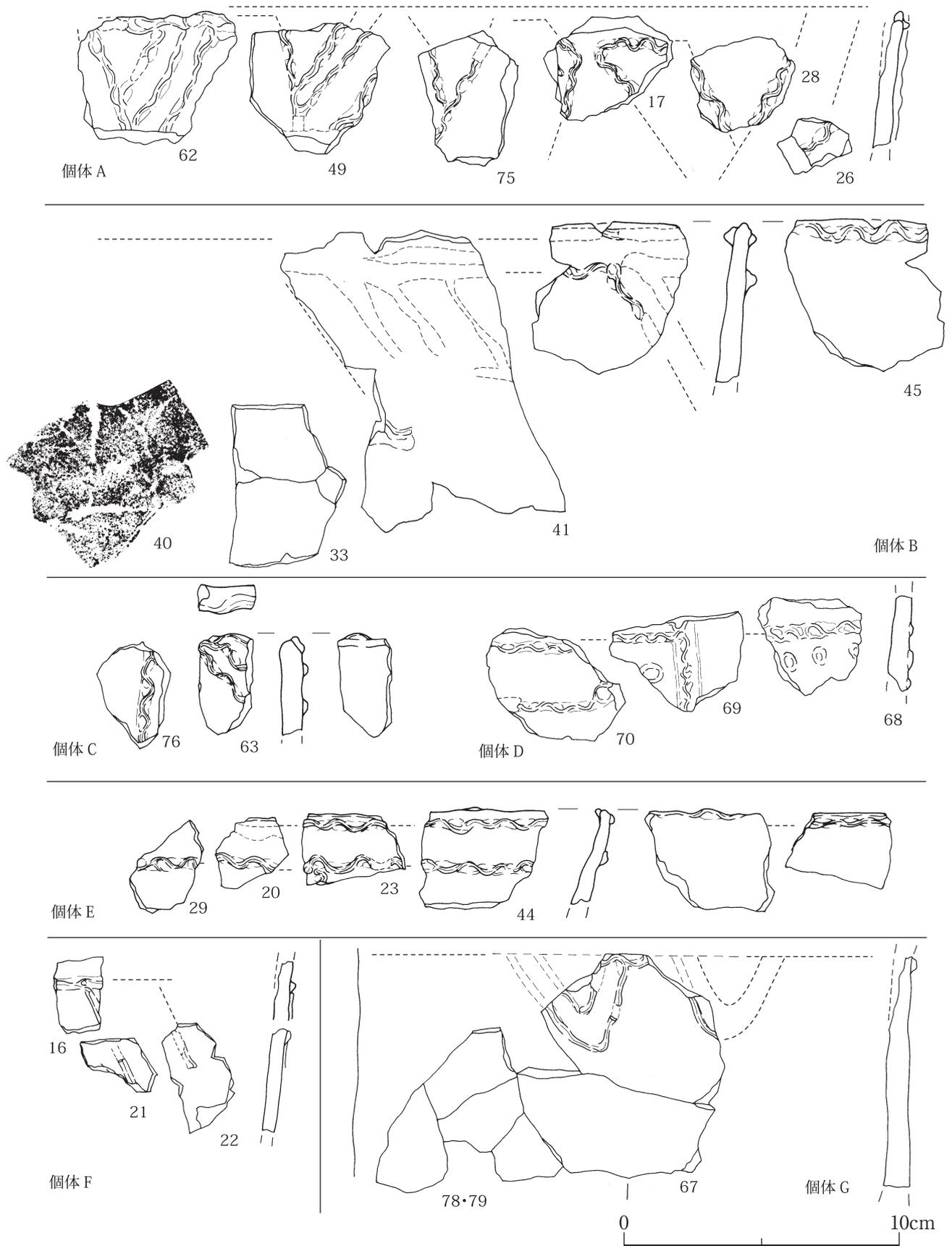


図24 个体別1群土器 1 (S = 1/2)

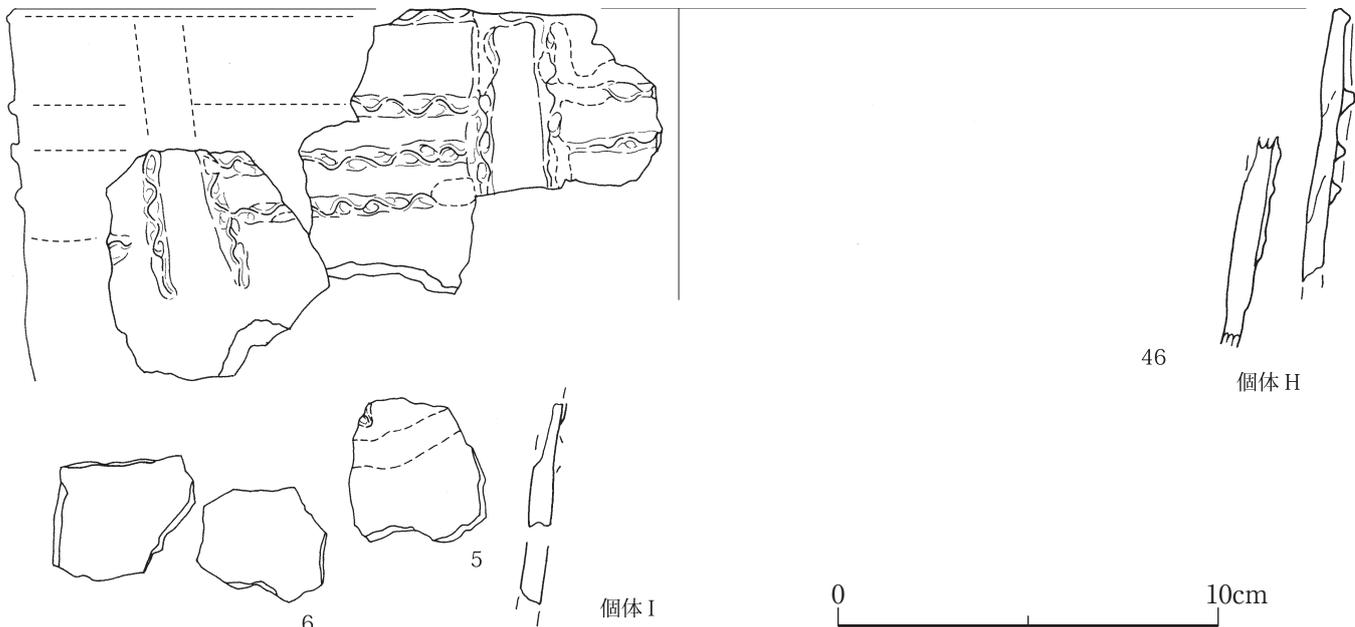


図25 個体別1群土器 2 (S = 1/2)

表4 1群土器観察表

図No	色	焼成	内容物	部位	成形・調整・文様	個体	調査次	区	層位	写真No	備考	既出文献	所蔵	箱No	注記	整理No
1	明褐色	良	石英・チャートやや多	胴部	ナデ		4	F-2	3				E			西田 100
2	黒褐色	良	チャート、黒色鉱物微	口縁	ヨコ・タテ隆帯貼付後つまみ、ナデ		4	F	4		隆帯一部剥落		E			西田 6
3	赤褐色	良	長石・チャート少	胴部	繊維状の痕跡、ユビナデ		4	A	4	20			K	IV-1		341
4	褐色	良	白色鉱物微、石片微	胴部	ナデ		4	A	5				K	IV-58		336
5	燈褐色	良	チャート、黒色鉱物微	胴部	繊維状の痕跡、タテユビナデ	I	4	A	6		隆帯剥落		K	IV-78		337-1
6	燈褐色	良	チャート、黒色鉱物微	胴部	繊維状の痕跡、タテユビナデ	I	4	A	6		2破片		K	IV-78		337-2
7	赤褐色	やや良	チャート・白色鉱物・石片少	胴部	擦痕		4	A-1	6		疑似口縁		K	IV-70		338
8	明褐色	良	長石微	胴部	ナデ		5	A	7		隆帯端部残存		K	V-25		348
9	暗灰褐色	良	白色鉱物微、石片少	胴部	胴部ヨコ隆帯貼付後つまみ、ナデ		4	A-4	7		隆帯剥落		K	V-25	4205	307
10	明褐色	やや良	金雲母・長石・チャート少	胴部	繊維状の痕跡		4	A-4	7		擬口縁、11と同個体		K	V-25	4206	349-1
11	明褐色	やや良	金雲母・長石・チャート少	胴部	繊維状の痕跡		4	A-4	7		10と同個体		K	V-25	4206	349-2
12	灰褐色	良	長石微	胴部	ナデ		2	D-2	7				K	196		350
13	外・褐色、内・赤褐色	良		胴部	ナデ	D	不明	不明	不明			十亀 19	R			TH
14	外・灰褐色、内・黒褐色	良	白色鉱・長石微	胴部	ナデ		3	C	8-2	19			K	192	No. 9-296	351

図No	色	焼成	内容物	部位	成形・調整・文様	個体	調査次	区	層位	写真No	備考	既出文献	所蔵	箱No	注記	整理No
15	外・明灰褐色, 内・黒褐色	やや不良		胴部			4	B	8		疑似口縁?		K	IV-93		315
16	黒褐色	良	白色鉱物少, 石英微	胴部	ヨコ・タテ隆帯貼付後つまみ, ナデ	F	2	D-1	8			利根川15(1994)図3-3	K	II-10		3
17	外・暗褐色, 内・暗赤褐色		白色鉱物少, 石英微	胴部	胴部くの字状隆帯貼付後つまみ, ナデ	A	2	D-1	8			利根川15(1994)図3-8	K	II-8		8
18	黄褐色	良	黒色鉱物・チャート微	胴部	繊維状の痕跡, ユビナデ		4	B	8		3片		K	IV-95		329
19	外・暗褐色, 内・黒褐色	良	黒色雲母微	胴部	ナデ		4	B	8		3片		K	IV-93		316
20	外・黒褐色, 内・明褐色	良	白色鉱物少, 石英微, 黒色鉱物少	口縁	口唇ヨコ隆帯貼付後つまみ, ナデ	E	4	B	9-1		隆帯一部剥落	利根川15(1994)図3-1	K	IV-95		1
21	黒褐色	良	白色鉱物少, 石英微	胴部	タテ隆帯貼付後つまみ, ナデ	F	3	C	9-1		隆帯一部剥落	利根川15(1994)図4-15	K			15
22	黒褐色	良	白色鉱・石英少	胴部	タテ隆帯貼付後つまみ, ナデ	F	3	C	9-1		隆帯一部剥落		K			306
23	灰褐色	やや不良	金雲母微, チャート少, 白色鉱物多	口縁	口縁裏表ヨコ隆帯貼付後つまみ, ナデ	E	3	C	9-2			利根川15(1994)図4-13	K			13
24	暗褐色	やや良	石英・チャートやや多	口縁			3	C	9-2				K	III-39		302
25	灰褐色	やや不良	白色鉱物少, 石英微, チャート微	口縁	繊維状の痕跡		3	C	9-2		摩耗	利根川15(1994)図3-9	K	III-39	No.37-330	9
26	外・暗褐色, 内・暗赤褐色		白色鉱物少, 石英微	胴部	ヨコ・タテ隆帯貼付後つまみ, ナデ	A	4	C	9-2			利根川15(1994)図3-6	K	IV-39		6
27	黒褐色	やや良	白色鉱・チャート少	胴部	ヨコ・タテ隆帯貼付後つまみ, ナデ		3	C	9-2	7			K	III-39		304
28	外・灰褐色, 内・明黄褐色	良	白色鉱物少	胴部	タテ・ヨコ隆帯貼付後つまみ, 繊維状の痕跡	A	3	C	9-2			利根川15(1994)図3-4	K	III-39		4
29	外・黒褐色, 内・明褐色	やや不良	白色鉱物少, 石英微	胴部	ヨコ隆帯貼付後つまみ, ナデ	E	3	C	9-2			利根川15(1994)図3-2	K	III-39		2
30	灰褐色	やや良	白色鉱・チャートやや少	胴部	ヨコ・タテ隆帯貼付後つまみ, ナデ		3	C	9-2				K	III-39		303
31	灰褐色	良	長石微・黒色鉱物少	胴部	繊維状の痕跡, 内傾接合痕		3	C	9-2	17	胎土分析		K	III-40	No.10-356	354
32	灰褐色	やや良	白色鉱・チャートやや多	胴部			3	C	9-2				K	III-39		305
33	外・黒褐色, 内・灰褐色	良	金雲母・黒色鉱物少	胴部	繊維状の痕跡	B	3	C	9-2	4	隆帯剥落		K	III-40	No.5の獣骨付近	352
34	黄褐色	やや良	金雲母・石英・長石・チャート少	胴部			3	C	9-2				K	III-39		347
35	暗褐色	良	長石微	胴部	繊維状の痕跡		3	C	9-2				K	III-39		346
36	黄暗褐色	やや良	白色鉱・チャート少	胴部			3	C	9-3		37と同個体?		K			309
37	黒褐色	不良	金雲母少, チャート少, 石英多	口縁			3	C	9-3		摩耗	利根川15(1994)図3-10	K	III-42		10

図No	色	焼成	内容物	部位	成形・調整・文様	個体	調査次	区	層位	写真No	備考	既出文献	所蔵	箱No	注記	整理No
38	外・暗褐色, 内・明褐色	良	黒色雲母・チャート微	胴部			3	C括	9-3				K			310
39	外・赤褐色, 内・黒褐色	良	白色鉾・チャート少	胴部			3	C括	9-3		土製円盤?		K			311
40	外・黒褐色, 内・黄褐色	良	金雲母・長石少	胴部	繊維状の痕跡	B	3	C括	9-3	18			K	Ⅲ-40	No.16-362	353
41	外・暗褐色, 内・明褐色	やや良	白色鉾・チャート少	胴部	繊維状の痕跡, 隆線剥落	B	3	C括	9-3	2	38と同個体?		K	64?		308
42	明褐色	やや不良	白色多, 石英多	胴部			3	C括	9-4			利根川15(1994)図4-14	K			14
43	黒褐色	良	金雲母・白色鉾物微, 石片微	胴部	繊維状の痕跡, ユビナデ		4	B	9-4				K	Ⅳ-98		334
44	外・黒褐色, 内・暗赤褐色	良	白色鉾微	口縁	繊維状の痕跡, 隆線側ユビナデ	E	4	B	9			利根川15(1994)図4-12	K		B-9層56	12
45	灰褐色	やや不良	石英少, チャート少	口縁	繊維状痕跡, 口唇内面に隆線	B	4	B	9	3		利根川15(1994)図4-11	K		41, 43	11
46	明褐色	良	白色鉾・チャート少	口縁	繊維状の痕跡, 隆線側ユビナデ	H	4	B	9	1			M			歴博2
47	黄褐色	良	白色鉾微	口縁	ユビナデ		4	B	9				K	Ⅳ-94		317
48	褐色	良	白色鉾微	口縁			4	B	9		317と同個体?		K	Ⅳ-94	2	321
49	外・暗褐色, 内・暗赤褐色	良	白色鉾微	胴部	繊維状の痕跡, ユビナデ	A	4	B	9			利根川15(1994)図3-7, 日本の洞穴遺跡(1967)写真64右	K		B-9層No.43, 4, AA, 4001	7
50	外・暗褐色, 内・明褐色	やや良	白色鉾・チャートやや多	胴部			3	C	9				K	Ⅲ-2		301
51	黄褐色	良	黒色鉾物微	胴部	繊維状の痕跡, ユビナデ		4	B	9				K	Ⅳ-95		319
52	明褐色	良	白色鉾物微, 黒色鉾物微	胴部			4	B	9				K	Ⅳ-94		322
53	灰褐色	良	白色鉾・チャート微	胴部			4	B	9				K	Ⅳ-94		328
54	明褐色	良	白色鉾・石英多	胴部	内面輪積み痕		4	B	9				K	Ⅳ-94		323
55	褐色	良	白色鉾微	胴部	繊維状の痕跡		4	B	9		外面スス附着		K	Ⅳ-94		326
56	褐色	良	白色鉾微	胴部			4	B	9		内面スス附着		K	Ⅳ-94		324
57	暗黄褐色	やや不良		胴部	裏面条痕状		4	B	9				K	Ⅳ-94		318
58	暗褐色	良	白色鉾・チャート微	胴部	繊維状の痕跡		4	B	9		外面スス附着		K	Ⅳ-94		325
59	灰褐色	良	白色鉾・チャート微	胴部			4	B	9				K	Ⅳ-94		327
60	外・暗褐色, 内・黄褐色	良	黒色鉾物微	胴部	繊維状の痕跡, ユビナデ		4	B	9				K	Ⅳ-95		320
61	明褐色	良	白色鉾・長石やや少	底部			4	B	9	16			M			歴博3
62	暗赤褐色	良	白色鉾・チャート微	胴部		A	不明	不明	不明	5			T			EH-1
63	暗赤褐色	良	白色鉾・長石・金雲母微	口縁		C	不明	不明	不明	12			T			284-1
64	黒褐色	良	石片少	口縁	弱くユビナデ		4	A	攪乱		3片		K	Ⅳ-1		339

図No	色	焼成	内容物	部位	成形・調整・文様	個体	調査次	区	層位	写真No	備考	既出文献	所蔵	箱No	注記	整理No
65	黒褐色	良	金雲母・チャート・白色鉱物微	口縁	ユビナデ		4	A	攪乱				K	IV-1		340
66	黒褐色	良	金雲母・チャート・長石少	口縁	ヨコナデ		2	D-4	不明		植物繊維痕?		K	187		342
67	外・黒褐色 内・赤褐色	良	白色鉱・長石・金雲母微	胴部		G	不明	不明	不明	8	78・79と同個		M			284-3
68	外・黒褐色, 内・赤褐色	やや良	白色鉱, 黒色鉱物微	胴部	内部に繊維, 器面繊維状, 豆粒紋状突起	D	不明	不明	不明	10			T			TG-1
69	赤褐色	良	白色鉱・石英やや少	胴部		D	不明	不明	不明	9			R			A-114-1
70	赤褐色	良	白色鉱・石英やや少	胴部		D	不明	不明	不明	11			R			A-114-2
71	黒褐色	やや良	石英・長石・チャート少	胴部			不明	不明	不明		口唇欠		K	187		344
72	外・褐色, 内・黒褐色	やや良	白色鉱少	胴部			不明	不明	不明	15			T			TG-2
73	外・褐色, 内・黒褐色	やや良	白色鉱微	胴部			不明	不明	不明	14			T			TG-3
74	黄褐色	良	白色鉱少	胴部	波状隆帯, ユビナデ		2	D-1	不明				K	II-7		313
75	外・暗褐色, 内・暗赤褐色	良	白色鉱少, チャート微	胴部	繊維状の痕跡	A	4	A	不明	6	内外面スス付着	利根川15(1994)図3-5	K	IV-53		5
76	暗赤褐色	良	白色鉱・長石・金雲母微	胴部		C	不明	不明	不明	13			T			284-2
77	赤褐色	良	長石少	胴部	繊維状の痕跡		2	D-4	不明				K	II-11		345
78	暗褐色	良	金雲母・チャート・長石少	胴部		G	2	不明	不明				K	II-1		332
79	褐色	やや良	石英微	胴部		G	不明	不明	不明				K	187		343
80	明褐色	良		胴部	表ヘラミガキ裏ユビナデ		2	不明	不明				K	II-1		312
81	明褐色	やや良	石英・チャート・長石少	胴部			4	F-1	不明		深さ186 cm		E			西田 91
82	灰褐色	良	石英・チャート少	胴部			不明	不明	不明				E			西田 46
83	灰褐色	やや良	石英・チャート少	胴部			不明	不明	不明				E			西田 47
84	黄褐色	良	石英・チャートやや少	胴部			4	F-1	不明		深さ187 cm		E			西田 92
85	外・黄褐色, 内・黒褐色	良	金雲母少	胴部	繊維状の痕跡		4	A	不明				K	IV-53(箱192)		361
86	暗赤褐色	良	白色鉱・チャート微	胴部			不明	不明	不明				T			284-4

表5 1 群土器地区・層位別出土個体数 (慶應義塾大学保管分)

地区\層	不明・攪乱	3層	4層	5層	6層	7層	8層	9層
A 区	2		1	1	2	8		
B 区	8						2	15
C 区	2				1			33
D 区	1							3
不明・他	8							1
小 計	21	0	1	1	3	8	2	52

註 個体数は同一個体と思われるものは1と算定，個体認定不能の破片はそれぞれ1と数えたが，個体不明の1cm以下の小片は除外

表6 1 群土器地区・層位別出土個体数 (久万高原町保管分・歴博・愛媛県歴史文化博物館・その他)

地区\層	不明・攪乱	3層	4層	5層	6層	7層	8層	9層
A 区								
B 区								2
C 区								
D 区								1
F 区	2	1	1					
不明・他	7							
小 計	9	1	1	0	0	0	0	3

註 個体数は同一個体と思われるものは1と算定，個体認定不能の破片はそれぞれ1と数えたが，個体不明の1cm以下の小片は除外